

水路新技術講演会 プログラム

日 時：平成22年2月16日(火)

13時30分～17時45分

場 所：東京都中央区築地5-3-1

海上保安庁海洋情報部

7階大会議室

主 催：海上保安庁海洋情報部

(財)日本水路協会



※入場料は無料です。

【発表】 13時30分～17時45分

【開会挨拶】

- ◆ 13:30-13:35 海上保安庁海洋情報部長 加藤 茂

【特別講演】

- ◆ 13:40-14:40 「日本周辺の大陸棚の海底資源ポテンシャル」
東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻
教授 浦辺 徹郎

【口頭発表】

1. 14:45-15:00 「海洋コアコンプレックスの発達とフィリピン海背弧拡大の新しいモデル」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 小原 泰彦
2. 15:00-15:15 「海上保安庁における新たな海洋調査への取り組み」
海上保安庁海洋情報部海洋調査課 仙石 新
3. 15:15-15:30 「測深データの精度評価と測深データ管理システムの構築」(水路技術奨励賞受賞)
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 及川 光弘
(株) 海洋先端技術研究所 千葉 未子
4. 15:30-15:45 「えい航式海底測量システムの開発」(水路技術奨励賞受賞)
東亜建設工業(株) 藤山 映・那須野 陽平
(有) エムアンドエム 盛 雅道
東京海洋大学 海洋工学部 清水 悦郎

15:45-16:00

休

憩

5. 16:00-16:15 「二船式エアガン交互発震システムの開発」(水路技術奨励賞受賞)
(株)地球科学総合研究所 齊藤 秀雄・成田 誠

6. 16:15-16:30 「海底地殻変動観測で捉えた2005年宮城県沖の地震(M7.2)後の
海底の動き」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 佐藤 まりこ

7. 16:30-16:45 「電子海図表示装置の備置義務化を控えた航海用電子海図の最近の
動向」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 小森 達雄

16:45-17:00

休

憩

8. 17:00-17:15 「沖合海域における新たな懸濁物トレーサーの検討」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 山尾 理

9. 17:15-17:30 「2003年～2008年の東京湾奥部の底層溶存酸素濃度時間変化」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 渡邊 奈保子

10. 17:30-17:45 「現場型大容量水試料採取濃縮装置の開発」(水路技術奨励賞受賞)
イーアイエス・ジャパン(株) 大塚 俊昌

◆ 17:45

閉 会

【ポスター展示】 13時00分～18時00分

《コアタイム : 15:45～16:00 および 16:45～17:00》

- P01. 「大東海嶺の地殻構造」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 地震調査官 西澤 あずさ
- P02. 「南鳥島周辺の海山の速度構造モデル及びその解釈」
海上保安庁海洋情報部海洋調査課 大陸棚調査室 金田 謙太郎
- P03. 「沖縄トラフの地殻構造」
海上保安庁海洋情報部海洋調査課 大陸棚調査室 堀内 大嗣
- P04. 「諸外国の大陸棚申請海域」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 渡邊 奈保子
- P05. 「中深海域における水深データの S44 第 5 版測量基準への対応」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 及川 光弘
- P06. 「八代海南部の海底で発見された海丘群の潜水調査報告」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 伊藤 弘志
- P07. 「最近の MB データ処理ソフト」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 小野寺 健英
- P08. 「海底地殻変動観測における速報暦の有効性」
海上保安庁海洋情報部海洋調査課 航法測地室 斎藤 宏彰
- P09. 「東シナ海における POPs (残留性有機汚染物質) 汚染～大量海水の現場処理手法による調査結果」
海上保安庁海洋情報部海洋調査課 汚染調査室 清水 潤子
- P10. 「数値モデルによる沿岸域の高解像度海況予測」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 工藤 宏之
- P11. 「ALOS (陸域観測技術衛星「だいち」) データを用いた流氷観測手法の開発及び利用」
海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 松本 憲二
- P12. 「CeisNet (シーズネット) と ESI マップ」
海上保安庁海洋情報部海洋情報課 沿岸域海洋情報管理室 足立 静治